「コロナ禍における新たな文化振興事業のかたち」

伊予市教育委員会事務局 社会教育課

1　本年度の取組

⑴　いよし市民総合文化祭

毎年 10 月下旬から 11 月上旬にかけて延べ 10,000 人を超える来場者で賑わう「いよし市民総合文化祭」は、令和元年８月にオープンした IYO 夢みらい館（伊予市文化交流センター）に会場を移し、開催した。しかし、、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、縮小開催を余儀なくされた。

大勢のお客様を招くイベントとしての文化祭開催は困難であったため、新たな文化祭の形を模索し、実行委員会に諮った上で、日々の練習や稽古などの成果を発表する場として「IYO 夢みらい館を使ってみよう」という事業に切り替えた。本市文化協会加盟団体に広く利用を呼び掛けたところ、文化ホールを 11 団体、地域交流館を５団体にご利用いただき、その様子を撮影して YouTube で配信する「みんなの文化祭オンライン　with　IYO 夢みらい館」という新たな成果発表の場を設けることができた。

【みんなの文化祭オンライン】

（参加者 450 名 YouTube 視聴回数 4,017 回）

⑵　図書館・文化ホールコラボ事業

IYO 夢みらい館は、「伊予市立図書館」「文化ホール」「地域交流館」という三つの複合施設となっている。本年度は図書館と文化ホールがコラボして、次の二つの文化振興事業を展開した。

①　伊予市のむかし話配信（令和２年６～９月実施）

伊予市教育委員会が発行する「伊予市のむかし話・伝説」の中から、内容や地域性などを考慮して 13 話を選び、図書館司書をはじめとするスタッフが、照明演出などを加えた文化ホールのステージ上で読み語りを行って YouTube 上で配信した。（YouTube 視聴回数 2,481 回）

② すてきな絵本の読み語りライブ（令和２年８月 16 日開催）

司書やスタッフが絵本を選書し、文化ホールの音響照明演出を交えて自らが読み語る「すてきな絵本の読み語り LIVE!」を開催した。（参加者 79 名）

【すてきな絵本の読み語りライブ告知】

２　成果

文化祭については、参加者の固定化、各団体の発表にのみ終始して他団体の活動に目を向けられないなどの課題があり、それを解消するため、会期を分散して時間的にも空間的にも余裕をもって開催する計画であった。この計画については反対や異論もあったが、コロナ禍のため、図らずも当初の計画に近い考え方で実施することとなった。

結果として、来場者数は前年度より大幅に減ったものの、各団体が自主的に運営しようとする動きに変わりはじめた。また、行政職員の役割も変化してきた。文化団体の魅力をアピールする方法などを具体的に話し合い、IYO 夢みらい館の運営にフィードバックするなど、各団体の活動一つ一つに注目することで新たな文化振興活動を展開することができた。

また、YouTube 上で配信することにより、「活動そのものを知らず驚いた」といった声があったり、他団体の活動に興味を持っていただいたりすることができた。

「伊予市のむかし話配信」や「すてきな絵本の読み語り LIVE！」は新しい取組であったが、関係者や参加していただいた方々から大変好評をいただいた。

３　課題

今年度は、過去の課題の克服や新しい取組に挑戦する１年であった。コロナ禍による悪影響よりも、コロナ禍を逆手に、できることを柔軟に展開することができた。一方で、文化振興事業を「まちの賑わい創出」につなげるためのスキームづくりは、このコロナ禍の悪影響をまともに受けてしまった。ここに紹介していない他の文化振興事業も含めて、「新たな日常」又は「コロナ禍後」、商店街などとの連携をどのように具体化させていくかが課題となっている。